

令和7年度次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム
第2回会議次第

日時：令和8年1月23日（金）10：00～

場所：福島県庁本庁舎5階 企画調整課分室1

- 1 開会
- 2 あいさつ
 - (1) プロジェクトチーム座長
 - (2) 福島県東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長
- 3 報告
 - (1) 令和7年度伝承者育成講座／中国人向け講座 実施状況報告について
 - (2) 令和7年度伝承者育成講座（英語） 実施状況報告について
 - (3) 令和7年度語り部県外派遣実施報告について
- 4 協議
 - (1) 令和8年度伝承者育成講座（案）について（第3回講座について）
 - (2) 令和8年度伝承者育成講座 開催要項（案）について
 - (3) 令和8年度伝承者育成講座（中国人向け）開催要項（案）について
 - (4) 令和8年度伝承者育成講座（英語）開催要項（案）について
 - (5) 伝承者育成講座の修了基準について
 - (6) 語り部県外派遣の登録基準について
- 5 事務連絡
- 6 閉会

<配布資料>

次第・プロジェクトチーム名簿

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 資料1 | 令和7年度伝承者育成講座／中国人向け講座 実施状況報告について |
| 資料2 | 令和7年度伝承者育成講座（英語） 実施状況報告について |
| 資料3 | 令和7年度語り部県外派遣実施報告について |
| 資料3-2 | 語り部県外派遣アンケート結果 |
| 資料4 | 令和8年度伝承者育成講座（案）（第3回講座について・交流会基調講演案） |
| 資料5 | 令和8年度伝承者育成講座 開催要項（案） |
| 資料6 | 令和8年度伝承者育成講座（中国人向け）開催要項（案） |
| 資料7 | 令和8年度伝承者育成講座（英語）開催要項（案） |
| 資料8 | 伝承者育成講座の修了基準について |
| 資料9 | 語り部県外派遣の登録基準について |

令和7年度次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチームメンバー
(五十音順)

	名 前	備考
有識者	東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授 東日本大震災・原子力災害伝承館上級研究員 開沼 博 氏	
	東北大学災害科学国際研究所准教授 佐藤 翔輔 氏	
	福島大学教育推進機構 高等教育企画室准教授 前川 直哉 氏	座長
語り部団体	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木 淑子 氏 （NPO 法人 富岡町3・11を語る会代表）	
	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議副会長 大谷 慶一 氏 （いわき語り部の会会長）	
報道機関	福島民友新聞社編集委員浜通り創生担当・論説委員 菅野 篤司 氏	
	福島民報社双葉郡統括兼双葉南支局長 鈴木 仁 氏	

3 報告

(1) 令和7年度伝承者育成講座／中国人向け講座 実施状況報告について

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座／中国人向け講座 実施結果概要

○開講式・第1回伝承者育成講座

受講生19名（育成講座18名、中国人向け講座1名）

【日時】令和7年7月19日（土）10:20～16:30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室

【内容】開講式

1 時間目「語り部の役割」

講師：ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木淑子氏

2 時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

講師：富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、福島大学准教授 前川 直哉氏

3 時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

講師：ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



○第2回伝承者育成講座（1日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国人向け講座1名、中国人向け講座聴講1名）

【日時】令和7年9月27日（土）9:30～16:00

【場所】大熊町・いわき市薄磯地区

【内容】フィールドワーク①大熊町 講師：大熊未来塾代表 木村紀夫氏

フィールドワーク②いわき市薄磯地区 講師：いわき語り部の会代表：大谷慶一氏



○第2回伝承者育成講座（2日目）

受講生 18名（育成講座16名、中国人向け講座1名、中国人向け講座聴講1名）

【日時】令和7年9月28日（日）9：00～15：30

【場所】双葉町産業交流センター

【内容】1時間目 意見交換会 講師：福島大学准教授 前川 直哉氏

2時間目「伝わりやすい話し方講座」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏

3時間目「プレゼンテーションスキルアップ」講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏



○第3回伝承者育成講座

受講生 8名（育成講座7名、中国人向け講座1名）

【日時】令和7年11月29日（土）10：30～14：30

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室等

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ」

講師：福島大学特任助教 久保田彩乃氏、福島大学准教授 前川 直哉氏、
ふくしまリアリ代表 山口祐次氏



令和7年度東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座／中国人向け講座 受講者名簿
講座出欠表 (50音順)

育成講座 No.	氏名	1回目	2回目	3回目
1	あ べ 安倍 さくら	○	○	○
2	あ べ よしひろ 安部 義広	○	×	×
3	いちじょう しゅうが 一條 秀雅	○	×	×
4	いのうえ さくら 井上 桜	○	○	×
5	いのうえ りゅうが 井上 琉雅	○	○	×
6	こじま も か 小島 百花	○	○	×
7	こばやし ち え こ 小林 千江子	○	○	×
8	こんの よしいち 紺野 芳一	○	○	×
9	さいか ひろえ 雑賀 宏枝	○	○	○
10	さとう たかし 佐藤 崇	○	○	○
11	しらとり み き 白鳥 美紀	○	○	×
12	しんかわ ち え こ 新川 智恵子	○	○	○
13	すずき まさき 鈴木 雅稀	○	○	○
14	たかむら みはる 高村 美春	○	○	×
15	とこよだ たかし 常世田 隆	○	○	○
16	ふくしま よしこ 福島 芳子	○	○	○
17	ましこ き ら 増子 輝良	○	○	×
18	わたなべ てつま 渡邊 鉄馬	○	○	×
中国語講座 No.	氏名	1回目	2回目	3回目
1	おおたけ ひでこ 大竹 英子	○	○	○
2	じょ せんい 徐 銓軼	×	○	×

1. 令和7年度伝承者育成講座について（総括）

- ・講座全体として、概ね、各講座のねらいを達成することができた。
- ・これまでと異なり、多様な震災経験を持つ意識の高い受講者が一堂に会して、震災について思うことを議論することにより、語り部としての心構え（覚悟）や、言葉の力の重要性について、自分事化するプロセスを受講生同士、或いは先輩語り部との学びあいの中で発見することができたことは、今後語り部を実践していく上で大きな成果となった。

- 震災伝承者として、自身の経験値以上の情報を得ることができた。
 - ・講話による震災伝承に関するインプット
 - ・講師や受講生といった様々な立場の人との意見交換、経験談の披露
 - ・受講生に不足している震災実体験の情報量の習得
- 震災の当事者（被災者）でなくても語れる素地を形成することができた。
 - ・語りの実演をもとに、講師や先輩語り部からの経験に基づいた具体的なアドバイス
 - ・受講生同士の感想発表およびプレゼン方法の工夫による経験価値の共有
 - ・記録動画によるセルフチェック
- 第1・2回講座（内容）については、次年度講座においても実施する。
 - ※講師については、受講生のレベル・参加者の経験値を考慮して検討する。

2 令和8年度伝承者育成講座の内容について

- （1）基本的には「令和8年度伝承者育成講座案」の計画で進めていくが、詳細については、受講生の語り部経験の有無、震災経験値等を見ながら決めていく。
 - ・語り部経験の有無や震災の経験の深度など、バランスを考慮したグループの構成。
 - ・受講生に「気づき」を促すような、全体コーディネーターからのポイントの示し方。
- （2）ネットワーク会議と絡めた講座内容にする。
 - ・ネットワーク会議会員に関わりがある中間貯蔵施設や介護施設、かつて避難所となった場所などをフィールドワークの訪問先とする。案内はネットワーク会議会員が行う。
 - ・ネットワーク会議会員を先輩語り部や、震災経験者として講座に協力いただき、震災経験の共有を強めていく。

①-1 第1回伝承者育成講座（1時間目） 実施状況 <受講生> 19名
（育成講座18名、中国語講座1名）

回・場所	項目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第1回 7月19日 (土)	開講式				
双葉町産業交流センター 大会議室	1時間目 語り部の役割 (90分) 10:30～ 12:00	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講者に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 <内容案> ①先輩語り部の震災講話を聴く (語り部の役割の本質的な理解) ②質疑応答	ふくしま語り部ネットワーク会 議長 青木淑子氏	・語り部の役割の本質的な理解 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得

講座の様子

【主な活動内容】

- ・震災語り部としての役割（震災の記憶がない世代に知らせる・学ばせる）と心得（様々な立場の人の話を積極的に聞き、自分に取り入れていく）について講話を聴く。
- ・受講生が関わった震災（直接的・間接的）について、自身の思いを言語化するためのきっかけにする。
- ・受講生からの質問・先輩語り部の震災講話を聴き、語り部の役割の本質的な理解を深める。
- ・震災語り部としての役割や心得について学ぶ。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○経験のない事象を先輩語り部の話を聞くことで、自分事化した語り方や伝え方について、受講生それぞれの立場（語り部経験の有無等）で学ぶ姿が見られた。

○アンケートの結果、受講生全員（19名）が語り部としての心得を「できた」「まあまあできた」と回答しており、先輩語り部の講話を通じて役割への理解が十分に深まった。

○特に「できた」と回答した受講生が約8割（15名）にのぼり、自身の活動を振り返りながら、語ることの意義を自分事として捉える姿が見られた。

●福島県内での震災の実体験が乏しい中、自身の想いをどのようにして福島県での語りとつなげていくか、それぞれに対する前向きな宿題となった。

【次年度に向けて】

高い達成度が得られたことから、引き続き、先輩語り部の講話から、語り部の役割や語ることの意義を理解する場を設定する。語り手の多様な視点に触れることで、受講生が自身の立場に応じた語り方を確立できるよう支援を継続する。

①-2 第1回伝承者育成講座（2時間目）

実施状況

<受講生> 19名

（育成講座18名、中国語講座1名）

回・場所	項目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第1回 7月19日 （土） 双葉町産業交流センター 大会議室	2時間目 地域の想いの共有 ワークショップ （75分） 13:00～ 14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 <内容案> ①相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※気づきを持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 前川直哉氏 青木淑子氏	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点

講座の様子

【主な活動内容】

- ・小グループに分かれての活動（5グループ）1班受講生3～4人（受講生＋講師）
- ・ふくしま震災等語り部としての意識を高めたり、他の語り部との相違点を考えたりすることを目的に、震災語り部になった動機やきっかけについての話し合い。
- ・「地域の想いの共有」をテーマとしたワークショップの実施。自身の伝えたいメッセージの具現化と、語り部活動の本質についての理解。
- ・ふくしま震災等語り部として大切にすべき点について、仲間との相互インタビューや意見交換を行う。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○「大切にしている部分を仲間と共有できたか」という問いに対し、全員（19名）が肯定的（「できた」「まあまあできた」）な回答を示した。

○受講生同士の交流を通じて、他の語り部との相違点や自身の創意工夫すべき点に気づき、語り部としての連帯感や意識が高まる様子が見受けられた。

●震災語り部の内容が多様化する中、自身のことばで福島をどのように表現していくか、そのために不可欠となるコミュニケーションによる横のつながり（ネットワーク）の強化の必要性が感じられた。

【次年度に向けて】

語り部の「役割」「姿勢」に正解はなく、それぞれの立場で自身の語りを確立する必要がある。

受講生が自身の語りに自信を持てるよう、引き続き対話の場を重視する。経験の有無にかかわらず、それぞれの立場で気づきを促すグループワークの編成を工夫していく。

①-3 第1回伝承者育成講座（3時間目） 実施状況

＜受講生＞ 19名
（育成講座18名、中国語講座1名）

回・場所	項 目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第1回 7月19日 （土） 双葉町産 業交流セ ンター 大会議室	3時間目 よくある質 問・震災知 識について のワーク ショップ （120 分） 14:30～ 16:30	多くの人に 知ってほし い福島 の震災発生 前、震災 発生当時、 震災発生 後について、 事実が伝 わっていないこと や、伝わりづら いことを再 認識すること ができる。	自身の語りの幅を広げ るため、それぞれの経験 や知識などを共有する 機会を設けます。（地 震・津波・原発事故・ 避難生活・放射線の 基礎等） ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくあ る質問」に答える（各 グループ）班編制4人 を上限 ②フィールドパートナー の話 ③意見交換（各グ ループ） ※気づきを持たせるヒ ントの与え方 ※情報を収集し、多様 性を理解するとともに持 論を持つことを意識す る。	フィールドパート ナー ふくしまリアリ代 表 山口祐次氏	・福島震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講者の知識・意見などを共有

講座の様子

【主な活動内容】

- ・小グループに分かれての活動（5グループ）1班受講生3～4人（受講生＋講師）
- ・よくある質問集から共通質問を決め、その回答についての意見交換をする。
- ・グループでの意見交換の活動を踏まえての講話を聴く。
- ・聴講者に共感を得られる伝え方や、震災の事実（発生前・当時・後）についての共通理解する。
- ・想定外の質問への対応や、多様な意見を理解する。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○各グループでの意見交換に参加した先輩語り部（青木氏、岩橋氏、大谷氏、岡氏、山口氏）の話を聞き、自身に不足している点を客観的に振り返り、語り部活動を自分事化するきっかけとなった。
○約9割（17名）の受講生が「聴き手に共感を得られる伝え方を確認できた」と回答し、自身の知識や経験をいかに効果的に共有するかについて、具体的なイメージを持つことができた。
●一方で、1名が「あまりできなかった」と回答しており、個々の受講生が抱える「共感を得るためのスキル」への不安や課題に対し、よりきめ細かなサポートが必要である。

【次年度に向けて】

先輩語り部の知見を共有する機会を継続しつつ、語り部それぞれの体験を自身の体験と比較や参考にできるように、共有する機会を設定していく。共感を得るための具体的な表現技術（話し方や構成）について、この習熟度に応じたフォローアップの時間を拡充する。

【講師コメント】質問に対する答えを考える際に、ディスカッションだけで終わらないようにしたい。

※第2回講座までに原稿・メモの見直し

② 第2回伝承者育成講座1日目（フィールドワーク）実施状況

＜受講生＞ 18名（育成講座16名、
中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

回・場所	項 目	ねらい	研修概要	講師	到達目 標
第2回 1日目 9月27日 (土) 双葉町産 業交流セ ンター 出発 9:30 双葉町産 業交流セ ンター 到着 17:30	語り部案内 によるフィー ルドワーク① (120 分) 9:50～ 11:50 語り部案内 によるフィー ルドワーク② (60分) 14:20～ 16:00	福島県内の 語り部の活動 内容を 実践の場で 体験し、その 活動現場を 訪れる。また、 自分自身の 経験を語るた めに必要なス キルや伝える べき震災の実 相について、 参加者の間 で学び合う。	語り部の話を聞 いたうえで、地 域の現状を把 握するため、震 災現場を訪れ ます。語り部の 実体験に基づく 説明を聞きなが ら、語り部活動 の重要性につい て考えます。 ＜内容案＞ ①震災現場訪 問 ②語り部による 地域案内 ③現場訪問 フィードバック	・フィールドワーク① 大熊町フィー ルドワーク、講話 大熊未来塾代 表：木村紀夫氏 ・バス移動（大熊 ～いわき）ネット ワーク会議会員 ・フィールドワーク② いわき市薄磯地区 いわき語り部の会 代表：大谷慶一 氏 ・バス移動中（い わき～双葉）ネッ トワーク会議会員	・語りを 自身の 言葉で 伝えるこ とができ る

講座の様子

【主な活動内容】

- ・語り部案内によるフィールドワークの実施（大熊町・大野駅周辺、講話、いわき市薄磯地区）。
- ・震災現場を訪れ、語り部の実体験に基づく説明を聴きながら地域の現状を把握する。
- ・バス移動中等を利用し、参加者間でフィールドワークの経験や気づきを共有する。

※第2回講座2日目に向けて、原稿・メモの見直しをする。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○アンケートの結果、いずれのフィールドワークにおいても、回答者全員が、「活動の意義を確認できた」「まあまあ確認できた」と回答した。

○現場で語り部の想いに触れることで、単なる経験談の伝達に留まらない「二度と繰り返してはいけないというメッセージ」や「言葉では語り尽くせない想い」を受講生が強く感じ取る機会となった。

●時間的な制約がある一方、非常に重要な現場での想いの共有は本講座の重要なポイントでもある。スケジュール調整や、移動時間、会場設営などの抜本的な見直しも検討が必要である。

【次年度に向けて】

フィールドワークは震災遺構や現場から伝わる熱量を共有する上で極めて有効であるため、次年度も継続する。案内する語り部や訪問地を固定せず、多様な体験に触れさせる機会を今後も重視していく。

【講師コメント】

実体験についての語りを聴いた震災体験のない受講者には委縮せず、自分なりの語りをしてもらいたい。

③-1 第2回伝承者育成講座2日目（意見交換会）実施状況

<受講生> 18名（育成講座16名、
中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

回・場所	項目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第2回 2日目 9月28日 (日) 双葉町産業交流センター 大会議室	意見交換会 (45分) 9:00～ 9:45	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法 (自身のメッセージや気持ちの載せ方)を身につけることができる。	フィールドワークを終え、実際の現場を体験してみている感想や、語り部の話す内容との違いや疑問等について、意見交換を行います。 参加した受講生の気づきや、自身の思いを具現化するために必要なことについて考えます。 <内容案> ①語り部との意見交換	福島大学准教授 前川直哉氏	・自身の経験を価値に変えるための気づきを得る

講座の様子

【主な活動内容】

- ・フィールドワークの感想を個々にアウトプットすることにより、それぞれの持つ体験との相違点を見出す。
- ・他人の意見を聞くことにより、自身になかった発見や考え方を学びあう。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○「意見交換について自身の思いを伝えるためには何が必要か考えることができたか」について回答者16名が「できた」「まあまあできた」と回答しており、他者の意見を聴くことで自身にはなかった発見や考え方を主体的に学ぶ姿が見られた

○「言葉に気持ちをのせること」や「聞き手に伝わる工夫」の大切さについて、受講生同士が対話を通じて再認識し、自身の語りを深めるきっかけとなった。

●自身の体験をわかりやすく伝えるためのスキルを磨くとともに、その体験を福島の地とどのように結び付けていくか、フィールドワーク等で培った現場の共有との関連性を強める工夫が求められる。

【次年度に向けて】

受講生同士のコミュニケーションは、語り部としての信頼関係と連帯感を育む不可欠な要素であるため、次年度以降も意見交換の時間を十分に設定する。

【講師コメント】

意見交換では「話すこと」「聞くこと」のバランスが重要。特定の人だけが話しすぎることをないよう、注意が必要。

※第2回講座2日目（発表）に向けて、原稿・メモの見直し

③-2 第2回伝承者育成講座2日目（2時間目）実施状況

＜受講生＞ 18名（育成講座16名、
中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

回・場所	項 目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第2回 2日目 9月28日 (日) 双葉町産 業交流セ ンター 大会議室	2時間目 伝わりやすい 話し方講座 (90分) 10:00～ 11:30	震災の経験や 記憶を自身の 言葉で伝える 方法 (自身のメッ セージや気持 ちの載せ方)を 身につけるこ とができる。	話し方講師か ら、語り部と して伝えたいこ とを、自分の言 葉で表現する 方法を習得し ます。 ＜内容案＞ 話し方講座、 多様な伝え 方	福島大学特 任助教 久保田彩乃 氏	・語りを自身 の言葉で伝え ることができる

講座の様子

【主な活動内容】

- ・話し方のプロから心に響く伝え方のポイントや発声方法を実践を交えて習得する。
- ・自身が伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるための工夫を学び、原稿の内容を精査する。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○「自分の思いを伝えるためのポイントに気づくことができたか」について14名が「できた」と回答し、4名が「まあまあできた」と回答した。

○発声や姿勢の確認に加え、聞き手とのコミュニケーションを意識した語りのスキルを体系的に学ぶことができた。

●受講生と講師との対話だけでなく、ケーススタディに対する受講生同士のコミュニケーションを増やし、想いを共有する学び合いの場を増やしていくことも今後の検討要素である。

【次年度に向けて】

自身の気持ちや伝えたいことをそのままに発信することが大切である一方で、伝えたいことが間違っていて理解されるといった懸念も生じることから、伝えたいことを相手にわかりやすく発信する技術を、受講生に改めて認識させるような学びあえる場を引き続き設定していく。技術的な向上は、伝えたいことが誤解なく伝わるための基盤となる。受講生が自身の想いを正しく発信できるよう、引き続き専門家による指導と学び合いの場を設定していく。

【講師コメント】

語り際には、自分が語りたいポイントを整理することが大切。受講生は真摯に受講していた。

③-3 第2回伝承者育成講座2日目（3時間目）実施状況

<受講生> 18名（育成講座16名、
中国語講座1名、中国語講座聴講1名）

回・場所	項目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第2回 2日目 9月28日 (日) 双葉町産 業交流セ ンター 大会議室 等	2時間目 プレゼンテ ーションスキ ルアップ(180 分) 12:30～ 15:30	震災の経験や 記憶を自身の 言葉で伝える 方法を身につ けることができ る。	原稿に沿って 実演を行い、 参加者同士 の意見交換 を行います。さ らに、受講生 のセルフチェ ック用に実演 の動画撮影を 行います。 <内容案> 受講者の実 演と実演に関 する意見交 換	福島大学特 任助教 久保田彩乃 氏 先輩語り部 (ふくしま語り 部ネットワー ク部ネットワ ーク 会議会員)	・自分事を相 手に伝え、共 感を得ること ができる

講座の様子

【主な活動内容】

- ・受講生による実演と、それに対する参加者同士の意見交換および講師から助言した。
- ・実演の動画撮影（セルフチェック用）を行い、自身の語りを客観的に振り返る。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○「震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができたか」について、10名が「できた」、5名が「まあまあできた」と回答した。他者の発表を聴くことで、自身が改善すべき点や語りへの想いを再確認する貴重な時間となった。

●自身の語りを客観視することの難しさを感じる受講生もいるため、肯定的なフィードバックを軸としたサポートが重要である。

●語りで使用する資料について、正確性や、著作権や引用に留意する必要がある。

【次年度に向けて】

受講生それぞれの語りに対する習熟度や想いの度合いが異なることを考慮し、個々の学びを最大化できるよう、適切な班編成とフォローアップを継続していく。

【講師コメント】

受講生には、自分の話の引き出しを増やしておくことと役立つことをお伝えしたので活用してほしい。

※第3回講座までに発表の練習

④ 第3回伝承者育成講座 実施状況（第2回講座の補習講座であるため、希望者のみ）

＜受講生＞ 8名（育成講座7名、中国語講座1名）

回・場所	項目	ねらい	研修概要	講師	到達目標
第3回 11月29日 (日) 双葉町産業交流センター 大会議室等	プレゼンテーションスキル アップ（180分） 10:30～14:30 ※途中60分休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学特任助教久保田彩乃氏 福島大学准教授 前川直哉氏 ふくしまリアリ代表 山口祐次氏	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。

講座の様子

【主な活動内容】

- ・受講生の実演、受講生同士の意見交換や講師からの助言を行う。
- ・自身の震災体験や記憶を整理し、聴き手に伝わる「自身の言葉」へとブラッシュアップする。
- ・実演やワークを通じ、構成の確認や表現方法の再検討を行う。

【受講生の様子から】（成果○・課題●）

○講座前半は語りを実演し講師等から助言をもらい、後半は自身の原稿や資料（スライド）の振り返りや修正を行うといった流れが、受講生にとって自分の語りをより客観的に見られる効果的な時間となった。
○受講生の75%（6名）が、自身の言葉で伝える方法について「できた」「まあまあできた」と回答しており、実践を通じて語りの核となる部分を掴みつつある様子が見られた。

●一方で、25%（2名）が「あまりできなかった」と回答している。自身の経験をどのように言語化し、メッセージとして昇華させるかという点において、まだ迷いや難しさを感じている受講生が一定数存在する。
○中国語講座は県国際課・福島県観光物産交流協会の中国語話者に協力いただき助言を得ることで、語りのブラッシュアップになった。

【次年度に向けて】

語りの完成度に個別の差が出てくる段階であるため、一律の指導だけでなく、個々の進捗や悩みに応じた個別相談やフォローアップの時間を設ける必要がある。少人数であることを活かし、講師や先輩語り部がより伴走型で支援できる体制を検討していく。

【講師コメント】

受講生の気づきにつながるので、実演後に具体的なアドバイスをする時間は大切である。

※第4回講座（成果発表）までに発表の練習

1. 令和7年度伝承者育成講座（中国人向け）講座について（総括）

- ・講座全体として、概ね、各講座のねらいを達成することができた。
- ・中国人向け講座受講者のみではなく、育成講座受講者と学びあうことで、語る言語が異なっても、語り部としての心構え（覚悟）や言葉の力の重要性について発見できたことは、今後語り部を実践していく上で大きな成果となった。

- 震災伝承者として、自身の経験値以上の情報を得ることができた。
 - ・講話による震災伝承に関するインプット
 - ・講師や受講生といった様々な立場の人との意見交換、経験談の披露
- 聞き手の立場に立った震災伝承のスキルアップができた。
 - ・語りの実演をもとに、講師や先輩語り部からの経験に基づいた具体的なアドバイス
 - ・アドバイザー（中国語話者）からの感想発表およびプレゼン方法の工夫
 - ・記録動画によるセルフチェック
- 次年度講座においても、育成講座を中国人向け講座受講者が受講する形式で実施する。

2 令和8年度伝承者育成講座（中国人向け）の内容について

- （1）基本的には「令和8年度伝承者育成講座」を中国人向け講座受講者が受講する計画で進めていく。
語り部経験の有無や震災の経験の深度など、バランスを考慮したグループの構成。
- （2）中国語による発表及び中国語話者によるアドバイスの機会を作る。
（公財）福島県観光物産交流協会、県国際課の中国語話者の方の協力のもと、受講生の発表に、具体的なアドバイスがあり、プレゼン方法のスキルアップにつながった。
次年度でも機会を設けることとする。

1. 令和7年度伝承者育成講座（英語）について（総括）

- ・講座全体としては、受講者自身がそれぞれのレベルに合わせて主体的に受講および習得をすることができた。
- ・受講者の意識が高い上、既に日本語の語り部や地域の伝承活動で活躍しているため、普段から自身が語る内容を、英語でどのように表現すれば、自身の思いを伝えることができるかという点について、真剣に学ぶ姿勢が感じられた。
- ・講座を重ねるごとに、“原稿を読む”ことから、“ことばで語る”ことに進化していくさまを、受講者が実感できたことは大きい。

- 震災伝承者として、自身の経験値をユニバーサルに伝えるスキルを習得することができた。
 - ・講師による伝え方の表現（テクニック）の伝達（発音/アクセント/身振り手振り等）。
 - ・他の発表者のプレゼンテーションも見聞きすることが、自身のスキルアップのためになおよかったと感じた（共創/学びあい）。
- 震災伝承者としてのスキルを活かし、新たな表現を行うことで、語りの幅が広がった。
 - ・語りの実演を披露したうえで、講師からの具体的なアドバイスを実施できた。
 - ・日本語でのプレゼン内容を英語に書き換えたうえでプレゼンを実施する、という工程を非効率と感ずるという意見もあったため、言語変換やプレゼンテーションのスキルアップに関しては、指導方法に改善の余地があると感じられた。
 - ・アーカイブ動画配布によるセルフチェックを繰り返し行うことによるレベルアップが図れた。
- 講座開催については、次年度においても講座実施の方向で進めたい。
 - ・英語のレベルについては個人差があるため、受講生ごとに目標を決めて行う。
 - ・プレゼンだけでなく質疑応答のところの対応方法も指導してほしいとの意見あり（範囲が広すぎるため検討が必要）。

2 令和8年度伝承者育成講座（英語）の内容について

- (1) 基本的には「令和8年度伝承者育成英語講座案」の計画で進めていくが、詳細については、受講生の語り部経験等の有無を見ながら決めていく。
 - ・語り部経験の有無や震災の経験、英語のスキルなど、バランスを考慮した受講者選定および指導内容の構成が必要。
 - ・受講生の気持ちに寄り添うコーチングと、自身の思いを伝える方法の具体的な指導。
- (2) 伝承者育成講座との日程調整。
 - ・伝承者育成講座と同日に行うメリットは極めて少ない。むしろ限られた人数で事務局を運営する中、育成講座と英語講座双方に支障をきたすことのないよう、別日程での開催が望ましい。なおオンラインでの実施については、リアル実施の希望も一部あったが、回を重ねると好意的意見であった。

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（英語） 実施概要

1 講師

Odbayar Sainbuyan氏（城西国際大学助教）：発音、イントネーション等英語指導等
野地 雄太氏（株式会社Beyond Lab 代表取締役）：「語り部」としての視点からの英語指導、表現のアドバイス等

2 日程・内容

○第1回講座

【日時】令和7年7月19日（土）

受講生①の講座：10：30～11：30

受講生②の講座：12：30～13：30

受講生③の講座：14：00～15：00

受講生④の講座：15：30～16：30

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」翻訳原稿の表現確認、質疑応答、原稿の音読等。

○第2回講座

【日時】令和7年9月27日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」原稿修正、原稿の音読、発音指導等。

○第3回講座

【日時】令和7年11月1日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」原稿の音読、発音指導、音読から伝える語りへの練習等。

○第4回講座

【日時】令和7年12月6日（土）オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

受講生④の講座：14：00～15：00

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」原稿の音読、発音指導、スライド資料を使用した語りの練習等。

○第5回講座・修了式（予定）

【日時】令和8年2月7日（土）10：00～12：00

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】成果発表 ※修了式 13：30～（予定）

英語講座アンケート集計
●令和7年度第1回英語講座アンケート

<アンケート集計（4名提出）> （○よかった点 ●課題点）

- 1 英語原稿に係る疑問点は解消されましたか
（例：伝えたい部分の英語表現の理解、伝えたい内容と原稿の間の 疑問点等）

まあまあできた 4名

Q. 自由記述

- 文章を簡単にするための手段や方法などは大変勉強になったが、文章の再構成能力がないので、かなり大変な作業になるな、と心配になった。

- 2 英語のスピーチの読み方（発音・イントネーション）の理解度について教えてください

まあまあできた 4名

Q. 自由記述

- ひとつひとつのイントネーションを意識して、まずは原稿上でもわかるように修正・練習をしたいです。

- 3 次回講座に向けて、改善点をみつけることができましたか。

できた 2名 まあまあできた 2名

Q. 自由記述

- 海外だとそもそも文化的に存在しない概念が多くあることに気づいたのでその反映をしたい。

- 4 今後の講座の方法についてオンライン講座も検討しています。オンライン講座についてあなたのご意見を聞かせてください。

オンライン講座がよい 1名 どちらでもよい 1名 オンライン講座でない方がよい 1名 無回答 1名

Q. 自由記述

- 車が運転できないので、双葉産業交流センターに公共交通機関だけ使って通うのは大変なので、オンラインにしていただけるとありがたいです。
- オンラインだと音がうまくひろえなかったり、聞き取りにくかったりするので、対面がいいです。

- 5 その他 1回目を終了した感想や今後の進め方に対する希望など、ご自由にご記載ください。

Q. 自由記述

- 進め方は今回のような感じで大丈夫です。
- 様々な文章再構成のアドバイスをいただいたが、咄嗟だとどこを話しているのか、どう修正すべきなのか書ききれなかった（咄嗟に英文を書くことが困難）ので、文字起こしのサポートもしくは講座全体を録音させていただきなどお願いしたいです。

●令和7年度第2回英語講座アンケート

<アンケート集計（3名提出）> （○よかった点 ●課題点）

- 1 英語原稿に係る疑問点は解消されましたか
（例：伝えたい部分の英語表現の理解、伝えたい内容と原稿の間の 疑問点等）

まあまあできた 1名 あまりできなかった 1名 できなかった 1名

Q. 自由記述

- 前回指摘いただいた点を踏まえて原稿を書き直して臨んだが、とりあえず問題なかったようなので良かった。
- 原稿の再修正が必要なため、まだ疑問点の解消までいきついていない。

- 2 英語のスピーチの読み方（発音・イントネーション）の理解度について教えてください

あまりできなかった 3名

Q. 自由記述

- 2回目の講座までの時間は原稿修正で手いっぱい練習まで手が回らなかったため、次回までには読み練習も行いたい。
- チャット欄のメモはコピペしたが、可能であれば録画の共有をお願いしたい

- 3 次回講座に向けて、改善点をみつけることができましたか。

できた 1名 まあまあできた 2名

Q. 自由記述

- プレゼン方式で話すためには、少なくとも原稿がある程度頭に入っている状態でないといけない。今の状態だと、文章が頭に入っておらず、発音もひとつひとつ意識している状態なので、練習をしてこの状態をなんとかしたい。

- 4 オンライン講座について、良かったと思うこと、工夫が必要だと思うことを聞かせてください。

Q. 自由記述

- 私用のため遠方にいたが、オンライン開催のため大変助かった。

- 5 その他 今回の講座の感想や今後の進め方に対する希望など、ご自由にご記載ください。

Q. 自由記述

- 次回までの道筋が見えたので頑張りたいと思います。もし可能なのであれば、他2名の参加者がどのような話をするのかを知る時間があるといいなと思いました。
- 原稿修正、発音練習共にAI活用を前提とされているので、Chat GPT の使い方講座も受けたい気持ちです。やはり英語力の基礎がない者には、難易度の高い挑戦だと思いました。引き続きよろしくお願いします。

●令和7年度第3回英語講座アンケート

＜アンケート集計（3名提出）＞ （○よかった点 ●課題点）

- 1 英語原稿に係る疑問点は解消されましたか
（例：伝えたい部分の英語表現の理解、伝えたい内容と原稿の間の 疑問点等）

できた 1名 まあまあできた 2名

Q. 自由記述

- 前回指摘いただいた内容を踏まえてスピーチを行うことができた。
- もう少し具体的なアドバイスがほしかった（書き言葉／読み言葉と言われても何が違うのかがわからない）。

- 2 英語のスピーチの読み方（発音・イントネーション）の理解度について教えてください

できた 1名 まあまあできた 2名

Q. 自由記述

- 指摘された発音の一部は前回から修正できたように思う。発音はまだ修正すべき点があるが、方向性は見えた。

- 3 次回講座に向けて、改善点をみつけることができましたか。

できた 2名 まあまあできた 1名

Q. 自由記述

- 読む練習を頑張ります

- 4 オンライン講座について、良かったと思うこと、工夫が必要だと思うことを聞かせてください。

Q. 自由記述

- 原稿や発音の練習段階ではオンラインの方がやりやすいように感じた。
- 今回は読み上げの時間が短縮されたこともあり、時間内にフィードバックがもらえてよかった。特に不便に感じる点はなかった。

- 5 その他 今回の講座の感想や今後の進め方に対する希望など、ご自由にご記載ください。

Q. 自由記述

- 前回から今回までの間に、友人に協力してもらって原稿を修正した。スライドにあわせながら、感情をこめて読むことにまだ自信は持てないが、原稿がある程度固まったのですこし安心感を得られた。引き続き頑張りたい。

●令和7年度第4回英語講座アンケート

＜アンケート集計（4名提出）＞ （○よかった点 ●課題点）

- 1 英語原稿に係る疑問点は解消されましたか
（例：伝えたい部分の英語表現の理解、伝えたい内容と原稿の間の 疑問点等）

できた 2名 まあまあできた 1名 あまりできなかった 1名

Q. 自由記述

- 今回読み上げてみて、まだまだ聞いている方が分かりやすいように修正が必要と感じました。一方で、自分の伝えたい内容はほぼ盛り込むことができていますと感じています。
- 講座としては初めてスライドを使いながらの練習だったが、情報の過不足などを確認することができた。また、ニュアンスの確認もすることができた。

- 2 英語のスピーチの読み方（発音・イントネーション）の理解度について教えてください

まあまあできた 4名

Q. 自由記述

- まだ、たどたどしさが残る部分があるが、発音自体は大きな修正などもなかったので良かった。
- 英語のアクセント、イントネーションに不安を感じてきていましたが、第4回講座において講師から受けた指摘が役立ちました。
- 誤っている発音等について教えていただけたので練習すべきポイントが分かった。

- 3 次回講座に向けて、改善点をみつけることができましたか。

できた 2名 まあまあできた 2名

Q. 自由記述

- 実際に読み上げることで、聞いている人に不要な無駄な説明や言葉の繰り返しが多いことに気づきました。いまの英語原稿をどのように手直しすれば、より分かりやすいものになるか分かりました
- もう少し原稿を削る必要があるとのこと、読む練習及び原稿の調整を行いたい。

- 4 オンライン講座について、良かったと思うこと、工夫が必要だと思うことを聞かせてください。

Q. 自由記述

- 自宅及び勤務先から、本講座でよく利用される双葉町や富岡町の施設まで遠く、車を運転できない身としては、本数の少ない公共交通機関を利用するしかないところ、オンライン講座は大変ありがたかったです。
- 慣れてきたため特に不便さはありません。読んでいる間に、指摘箇所を文字でうってチャットで共有してくださるのはありがたいです。指摘のスピードや内容的に口頭で言われるだけだと難易度が高いので。

- 5 その他 今回の講座の感想や今後の進め方に対する希望など、ご自由にご記載ください。

Q. 自由記述

- ただ単に原稿を読み上げるのではなく、質疑応答の練習も組み込んでいただければ、実際の語りの際に、聞いている方から内容について問われた際のやり取りに役立つと思われますので、今後検討いただければと思います。
- 今年度は難しいかと思いますが、一人ひとり進度が異なるので難しいかもしれませんが、受講者全員がお互いの発表を聞き合う場などがあっても良いのかなと思いました。特に英語に関することは講師の方々から教えて頂いたり学ぶこともたくさんあるのですが、内容やニュアンスの部分は語部をやっている同士だからこそ参考に出来る部分があるような気がしています。
- 最初原稿作成段階から、簡単な日本語で書くこと、読み原稿で作成すること、成果発表のイメージを持つことで、途中の原稿修正が減ると思います。

3 報告
(3) 令和7年度語り部県外派遣実施報告について

資料3

①派遣先一覧表

令和8年1月8日現在

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
1	令和7年 5月24日(土)	茨城県	水戸市	民間	ハクビ京都きもの学院茨城師範会	免許授与式&パーティー	星降る古里ひろの	鈴木恵子	60
2	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせうボ (小学5.6年生対象)	防災授業	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	70
3	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせうボ (小学3.4年生対象)	防災授業	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	60
4	6月21日(土)	東京都	清瀬市	民間	NPO法人きよせうボ (保護者・地域住民対象)	防災イベント	富岡町 3・11を語る会	宗像涼	30
5	6月22日(日)	熊本県	水俣市	行政	原発避難計画を考える 水俣の会	福島原子力災害の経験から水俣の避難計画を考えよう	原発震災を語り継ぐ会	高村美春	30
6	7月8日(火)	長崎県	佐世保市	行政	清水地区自治協議会・ コミュニティセンター 北地区自治協議会・コ ミュニティーセンター	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	80
7	7月8日(火)	長崎県	佐世保市	行政	山澄地区自治協議会 ・コミュニティセンター	福島語り部のおはなし会 ～3C3J共催講座～	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	80
8	7月9日(水)	長崎県	佐世保市	教育(高)	佐世保女子高等学校	東日本大震災を通して命の大切さを学ぶ	いわもと社会福祉事務所	岩本美智子	160
9	7月15日(火)	東京都	杉並区	教育(高)	東京都立農芸高等学校	第2学年 震災学習	いわき語り部の会	石川弘子	137
10	8月22日(金)	岡山県	備前市	行政	備前市役所 文化スポーツ部 生涯学習課	「災害時の人権」～地震・津波への初期対応と避難生活時の配慮～	いわき語り部の会	大河内喜男	50
11	8月29日(金)	山形県	東置賜郡川西町	教育(小)	川西町立中郡小学校	「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話(下学年)	浪江まち物語つたえ隊	岡洋子	54
12	8月29日(金)	山形県	東置賜郡川西町	教育(小)	川西町立中郡小学校	「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話(高学年)	浪江まち物語つたえ隊	岡洋子	56
13	9月4日(木)	香川県	坂出市	教育(小)	坂出市立東部小学校 4年団	総合的な学習の時間	南相馬 原発・震災語り部の会	永岡富紀子	60
14	9月4日(木)	香川県	坂出市	教育(小)	坂出市立東部小学校 教職員	教員研修の時間	南相馬 原発・震災語り部の会	永岡富紀子	30
15	9月10日(水)	栃木県	大田原市	教育(高)	栃木県立大田原高等学校	飯舘村実地研修事前指導 ～「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部」震災講話～	ニコニコ菅野農園	菅野クニ	50

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
16	9月11日(木)	栃木県	佐野市	行政	佐野市役所 人権・ 男女共同参画課 人権推進係	人権教育指導者養成 専門講座	いわき語り部 の会	石塚洋悦	25
17	9月11日(木)	三重県	尾鷲市	行政	尾鷲市婦人の会連 絡協議会	尾鷲市婦人の会連 絡協議会防災講演 会(仮)	いわき語り部 の会	木村貞子	100
18	9月24日(水)	埼玉県	児玉郡 上里町	民間	キヤノン・コンポーネ ンツ株式会社	＜ゆう活＞「ふくしま 語り部」講演会 東 日本大震災・原子 力災害	いわき語り部 の会	木村貞子	60
19	9月26日(金)	栃木県	日光市	行政	日光市中宮祠自治 会	奥日光地域防災の 日 研修会	山百合の会	松田早百合	30
20	10月5日(日)	大阪府	大阪市 西区	民間	シルバーユニオン災害 ボランティア隊	「福島は今」	原発震災を 語り継ぐ会	高村美春	30
21	10月10日(金)	福島県	福島市	民間	東北ノミ株式会社	東北ノミ株式会社 安全衛生協力会 第13回協議会	双葉町語り 部の会	國分信一	43
22	10月24日(金) 【オンライン】	沖縄県	伊是名 村	教育 (中)	伊是名村立伊是名 中学校	防災訓練	山百合の会	松田早百合	60
23	10月27日(月)	徳島県	吉野川 市	教育 (中・ 高)	徳島県立川島中学 校・高等学校	校内人権教育講演 会(中高生, 教職 員、保護者対象)	いわき語り部 の会	石川弘子	520
24	11月5日(水)	沖縄県	今帰仁 村	教育 (中)	今帰仁村立今帰仁 中学校	防災講習会	富岡町 3・ 11を語る会	宗像涼	320
25	11月6日(木)	静岡県	掛川市	教育 (小)	静岡県掛川市立第 一小学校	防災について考えよう	星降る古里 ひろの	鈴木恵子	121
26	11月7日(金)	徳島県	小松島 市	教育 (中・ 高)	徳島県立小松島西 高等学校	人権教育講演会	富岡町 3・ 11を語る会	吉田恵子	540
27	11月11日(火)	静岡県	菊川市	教育 (小)	静岡県菊川市立加 茂小学校 5年1組	防災学習講演会	震災ダンボ ールアート語り 部の会	遠藤昭三	37
28	11月11日(火)	静岡県	菊川市	教育 (小)	静岡県菊川市立加 茂小学校 5年2組	防災学習講演会	震災ダンボ ールアート語り 部の会	遠藤昭三	39
29	11月15日(土)	長崎県	平戸市	行政	長崎県平戸市教育 委員会 生涯学習 課	ひらど市民大学	いわき語り部 の会	大谷慶一	40
30	11月19日(水)	熊本県	葦北郡 津	行政	津奈木町教育委 員会	津奈木町生涯学習 講座(津奈木町防 災講座)	會空(あいく う)	庄子ヤウ子	30
31	11月25日(火)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26
32	11月26日(水)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26
33	11月27日(木)	神奈川県	横浜市	教育 (中)	横浜市立南瀬谷 中学校	事前学習	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	26

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講者 数(人)
34	11月26日 (水)	栃木県	河内郡 上三川町	行政	上三川町 生涯学 習課	上三川町人権カレ シ 第5回	いわき語り部 の会	大河内喜男	60
35	12月3日(水)	長崎県	長崎市	教育 (中)	長崎県長崎市立福 田中学校	福田中学校人権講 話	いわき語り部 の会	石塚洋悦	200
36	12月11日 (木)	京都府	京都市	教育 (大)	京都ノートルダム女子 大学 佐藤研究室	京都ノートルダム女 子大学 理科室 (2階)	シン・ふくしま 自治体職員 の学校	平野勝長	91
37	12月12日 (金)	東京都	国分寺 市	教育 (小)	国分寺市立第十小 学校	総合的な学習の時 間「国分寺防災プロ ジェクト」での震災講 話	南相馬 原 発・震災語り 部の会	岩橋光善	91
38	12月16日 (火)	青森県	弘前市	教育 (大)	国立大学法人 弘 前大学	弘前大学教養教育 科目「持続可能な 開発目標SDGs-弘 前大学災害対応マ ネージャーその3 原 子力災害の理解-」	F. tellers (エフ・テラ ズ)	穴戸結実	100
39	12月23日 (火)	佐賀県	唐津市	行政	佐賀県唐津市	東日本大震災・原 子力災害「語り人 (かたりべ)」講演 会	會空(あいく う)	庄子ヤウ子	150
						聴講者計			3,772

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講 者数 (人)
40	令和8年 1月10日(土)	福島県	双葉郡	行政	東日本大震災・原子 力災害伝承館	東日本大震災・原 子力災害伝承館 語り部講話	浪江まち物語つ たえ隊	岡洋子	30
41	1月10日(土)	福島県	双葉郡	行政	東日本大震災・原子 力災害伝承館	東日本大震災・原 子力災害伝承館 語り部講話	浪江まち物語つ たえ隊	岡洋子	30
42	1月14日(水)	静岡県	富士市	教育 (中)	静岡県立吉原林間 学園	防災学習「災害に ついて知る・学ぶ ～自分たちができる こと～」	いわき語り部の 会	石塚洋悦	10
43	1月16日(金)	神奈川県	横浜市	民間	神奈川県生活協同 組合連合会	(仮称) 3.11東 日本大震災を忘れ ない ～15年前の 災害から学ぶ～	おおくま町物語 伝承の会	橘秀人	20
44	1月22日(木)	静岡県	湖西市	教育 (小)	湖西市立岡崎小学 校	5年生岡学 防災・ 減災講座	ニコニコ菅野農 園	菅野クニ	130
45	1月26日(月) 【オンライン】	沖縄県	伊平屋 村	教育 (中)	沖縄県伊平屋村立 伊平屋中学校	「ふくしま語り部」講 演会	南相馬 原発・ 震災語り部の 会	岩橋光善	60
46	1月29日(木)	滋賀県	米原市	教育 (中)	米原市柏原中学校	人権集会	相馬市観光協 会	井島順子	47

No.	開催日	主催者 都道府県	主催者 属性	主催者 地域	主催者	行事名	団体	決定講師	聴講 者数 (人)
47	2月1日(日)	大阪府	高槻市	民間	安満人倶楽部 防災 グループ	名称未定 安満人 倶楽部と公園管理 事業者パートナーズ (西武造園株式 会社)との協働事 業	おおくま町物語 伝承の会	橘秀人	100
48	2月5日(木) 【オンライン】	鹿児島県	大島郡 瀬戸内 町(奄 美大島)	教育 (高)	鹿児島県立古仁屋 高等学校	記載なし	富岡町 3・11 を語る会	青木淑子	38
49	2月9日(月)	静岡県	静岡市	教育 (高)	駿河総合高等学校	地域防災講話	相馬市観光協 会	井島順子	211
50	2月12日(木)	埼玉県	幸手市	教育 (小)	幸手市立吉田小学 校	東日本大震災の経 験から学ぶ防災の 大切さ (吉田防 災フェスティバル)	富岡町 3・11 を語る会	宗像涼	80
51	2月13日(金)	新潟県	新潟市	教育 (中)	新潟市立小須戸中 学校	東日本大震災を学 びに変える	山百合の会	松田早百 合	188
52	2月21日(土)	千葉県	君津市	行政	君津市小櫃公民館	ふくしま語り部に学 ぶ防災講座	双葉町語り部 の会	國分信一	20
53	2月22日(日)	岡山県	和気郡	行政	和気町教育委員会 社会教育課	和気町公民館講 座	原発震災を語り 継ぐ会	高村美春	30
54	3月5日(木)	東京都	江東区	教育 (中)	江東区立有明中学 校	震災講話	星降る古里ひろ の	鈴木恵子	385
55	3月7日(土)	東京都	羽村市	行政	羽村市	羽村市防災週間	震災ダンボール アート語り部の 会	遠藤昭三	60
56	3月7日(土)	福島県	福島市	行政	東日本大震災復興 フォーラム実行委員会	3.11東日本大震 災風化防止イベン ト～復興・その先へ 2026～	未定	未定	40
57	3月10日(火)	福島県	福島市	行政	東日本大震災復興 フォーラム実行委員会	3.11東日本大震 災風化防止イベン ト～復興・その先へ 2027～	F. tellers (エフ・テラー ズ)	發田紗織	40
						予定聴講者計			1,519
						聴講者予定合計数			5,291

②属性別派遣先一覧表

令和8年1月8日現在

<主催者属性>

主催者	行政	民間	教育	教育（小）	教育（中）	教育（高）	教育（中・高）
回数	16	7	25	7	9	5	2

<主催者地域>

地域	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州・沖縄
回数		6	15	6	5	2	3	11

<主催者都道府県>

都道府県	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
回数		1				1	4	1
都道府県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
回数	4		2	1	5	2	1	
都道府県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
回数						5		1
都道府県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
回数	1	1	2					
都道府県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
回数	2			2	1			
都道府県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
回数	1	4	2			1	3	

<派遣回数上位>

- ①東京都・静岡県 5回
- ②栃木県・長崎県 4回
- ③沖縄県 3回

<団体別 派遣回数>

No.	語り部名	派遣回数	所属人数
1	F. tellers (エフ・テラーズ)	2	2
2	シン・ふくしま自治体職員の学校	2	1
3	星降る古里ひろの	3	1
4	山百合の会	3	1
5	震災ダンボールアート語り部の会	2	1
6	いわもと社会福祉事務所	2	1
7	會空 (あいく)	2	1
8	相馬市観光協会	2	1
9	南相馬 原発・震災語り部の会	3	2
10	原発震災を語り継ぐ会	3	1

No.	語り部名	派遣回数	所属人数
11	ニコニコ菅野農園	2	1
12	浪江まち物語つたえ隊	2	1
13	双葉町語り部の会	2	1
14	おおくま町物語伝承の会	2	2
15	富岡町 3・11を語る会	5	5
16	いわき語り部の会	10	5
17	福島浜通り復興まちづくり語り部の会	0	1

<語り部別 派遣件数>

No.	語り部名	派遣件数
1	青木淑子	1
2	猪狩輝美	
3	石川弘子	2
4	石塚洋悦	3
5	井島順子	2
6	岩橋光善	2
7	岩本美智子	2
8	遠藤絹子	
9	遠藤昭三	2
10	大河内喜男	2
11	大谷慶一	1
12	岡洋子	2
13	菅野クニ	2
14	木村貞子	2
15	國分信一	2
16	三船暁	
17	穴戸結実	1
18	庄子ヤウ子	2
19	鈴木恵子	3
20	高村美春	3
21	橘秀人	2
22	橘弘美	
23	永岡富紀子	1
24	發田紗織	1
25	平野勝長	2
26	松田早百合	3
27	宗像涼	3
28	吉田恵子	1

<語り部別 講演回数>

No.	語り部名	講演回数
1	青木淑子	1
2	猪狩輝美	
3	石川弘子	2
4	石塚洋悦	3
5	井島順子	2
6	岩橋光善	2
7	岩本美智子	3
8	遠藤絹子	
9	遠藤昭三	3
10	大河内喜男	2
11	大谷慶一	1
12	岡洋子	4
13	菅野クニ	2
14	木村貞子	2
15	國分信一	2
16	三船暁	
17	穴戸結実	1
18	庄子ヤウ子	2
19	鈴木恵子	3
20	高村美春	3
21	橘秀人	2
22	橘弘美	
23	永岡富紀子	2
24	發田紗織	1
25	平野勝長	4
26	松田早百合	3
27	宗像涼	5
28	吉田恵子	1

福島県文化スポーツ局生涯学習課 御中

●

令和7年度 東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部県外派遣事業に関するアンケート

報 告 書

●

●

令和8年1月13日

株式会社 JTB



令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

実施期間	令和7年12月26日(金)～令和8年1月13日(火)
実施方法	FormsによるWeb回答、またはアンケート用紙での回答
実施目的	令和7年度の申込方法（リスト順で語り部団体を選定）について、県外派遣登録団体の考えを取り集め、再度申込方法について語り部ネットワーク会議内で検討するため。
対象者	ふくしま語り部県外派遣（語り部ネットワーク会議）に登録している語り部団体
回答人数	25名（回答辞退 2名）

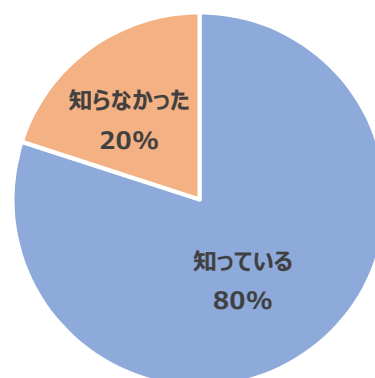
【対象団体：17団体】

- ・ F. tellers（エフ・テラーズ）
- ・ シン・ふくしま自治体職員の学校
- ・ 星降る古里ひろの
- ・ 山百合の会
- ・ 震災ダンボールアート語り部の会
- ・ いわもと社会福祉事務所
- ・ 會空（あいくう）
- ・ 相馬市観光協会
- ・ 南相馬 原発・震災語り部の会
- ・ 原発震災を語り継ぐ会
- ・ ニコニコ菅野農園
- ・ 浪江まち物語つたえ隊
- ・ 双葉町語り部の会
- ・ おおくま町物語伝承の会
- ・ 富岡町 3・11を語る会
- ・ いわき語り部の会
- ・ 福島浜通り復興まちづくり語り部の会

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

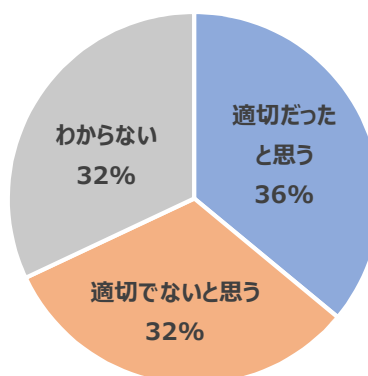
◆昨年8月に語り部県外派遣事業の申し込み方法が変更になったことはご存じですか？

知っている	20	名
知らなかった	5	名



◆本年度から行った、現在の申し込み方法は適切だと思いますか。

適切だったと思う	9	名
適切でないと思う	8	名
わからない	8	名



【現在の申込み～語り部決定までの方法】

- ① 県外派遣事務局に申込みがある（講演内容の希望のみ記載される。語り部の指名はされない）
- ② 県外派遣事務局より、派遣登録団体のリスト順で団体に申込書をお送りする。
- ③ 団体が申込書の主催者の要望を確認し、派遣可否を決定し、県外派遣事務局に回答する。
（主催者の要望の講演内容に沿えるかは、団体が判断する）

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

【 適切だったと思う と答えた理由やご意見 】

- 本年度と同じか、主催者側の希望の内容の語り部を選んで頂けると話すほうもやりやすいと思います。
- 団体内で派遣者を決定することはいいと思います。
- 良かったと思う。1つの団体に集中している形もないので平等にふられていると思った。
- ふくしま語り部県外派遣事務局の方のおかげで安心して行くことができます。ありがとうございます。
- 派遣機会が増えた人、減った人の差はどれぐらいなのでしょう？
- 多くの語り部に派遣機会が増えたのは良かった。一方、語り部の知り合いが派遣を依頼しても、その語り部に依頼が来るとは限らないのは良くない。そのため、来年度は、今年のやり方を基本的には踏襲しつつ、語り部の指名もできる制度を併存させるのが望ましいと考える。
- 語り部講話は希望（者）団体様の意図を基本としてその語る内容に合った語り部が行くべきだと考えています。
- 申し込み団体の内容を熟知できるので マッチングがスムーズにいくと思う。
- 会員登録団体の県外語り部の派遣回数に偏りが均整化されますので良いと思います。

【 わからない と答えた理由やご意見 】

- 私自身に依頼のあったものは、日程の都合がつかなかったり、依頼の内容が自分が話せない内容だったのでお断りしたため、今年度は県外派遣実績がありません。また、どの団体にどのような依頼をされているか全体像が見えないため、現在の申込方法がネットワーク会議全体としてみて最も適切な方法なのかどうか、判断が付きません。
- 選考方法などは8月からの変更で良く理解出来ていない部分がある。派遣業務は依頼があれば対応するので特に問題は無い。
- 適切かどうかと問われれば、申込団体の方々の意にあえば、適切だと思いますし、逆もしかりです。分かりません。
- まだ途中経過で結果が出ていない。
- 機会が増えたのか、減ったのか、他団体・語り部さんの回数がわからないので、比べることが出来ませんが、機会はあるにこしたことはないですね。
- わからない。
- 公平性については保たれているのかもしれないが、団体内での公平性や依頼主の希望についてはどうなのか？わからない…

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

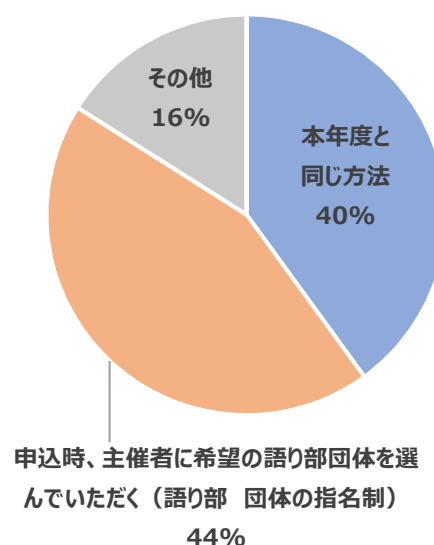
【 適切でないと思う と答えた理由やご意見 】

- 指名の回数に偏りがあり公平さに欠けると会長の言葉から変更になりましたが、団体を飛び越して個人の指名に疑問が芽生えた結果、今回の様になったと理解しています。
ところがミスマッチが起きて苦情が出ました。その苦情は事務局では無く、本来指名していた団体（個人）へです。そこから依頼者との信頼関係が壊れてしまった事実もあります。
その際の議場は発案者とファシリテーターが同一だった為に結果はおざなりになり、今の様な混乱を招いたと言うよりありません。
議長の発案であれば第三者に委ねて議を進めるべきではなかったかと思います。（事務局なりなんなり）
- 今年の動きが遅すぎて語る機会が少なかった。
- 県外語り部派遣に登録された方の活動の場を確保することも大切だと思っておりますが、派遣依頼元のニーズと質を担保する必要があると考えます。
- 各団体へ均等に割り振っては、派遣者の多い団体には、各個人への振り分け枠が少なくなってしまう。
登録個人別に割り振って、その連絡は各団体へ通知する。そうすれば各個人には均等になると思う。
県の予算事業なのだから、派遣先様からの指名は受けなくする。ただし、講話の内容は各個人派遣者には考慮することを徹底する。
- リスト順になれば全ての登録者団体が主催者の要望に応じられるか不安である。アンケート結果を踏まえて団体の力量を考えることも必要だと思います。
各団体の個性もあり、浜通り、中通りなど被災の受け方も違ってきます。全ての登録者が主催者の要望に応じられるか不安である。アンケート結果や団体の力量を考えることも必要だと思う。
主催者が主に何について知りたいか、聞きたいかが分かればやりやすいと思います。
- 以前は語り部ネットワークを通して来る派遣依頼が、今年は直接来るようになった。
我々のような年配の小さな団体は事務連絡等が苦手なので、できれば去年までのようなシステムに戻してもらった方が負担が少ない。
- 申し込みの方からの指名がある場合はそれを尊重すべきだと思います。指名が無ければ事務局の方がどんな話を聞きたいか聞いた上で、何人か紹介をし、選んでいただく。登録語り部全員を順番に派遣するのはちょっと違うかなと思います。相手方の目的によって派遣される方が片寄るかもしれませんが、それはそれ。事務局も大変だと思いますが、素晴らしい企画なのでこれからも続いていくことを願っています。
- 適切だと思う点：①の項目。県外派遣の機会が団体個人に偏らず、どの団体にも与えられる。
適切でないと思う点：②③の項目。「主催者の要望」と「団体個人の口演内容」のマッチングが十分に調整されていない。主催者の要望に応えられているかどうかの判断が、団体の判断でよいのか？不安が残る。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆来年度はどのような申込み方法を希望しますか？

本年度と同じ方法	10 名
申込時、主催者に 希望の語り部団体を選んでいただく	11 名
その他	4 名



【 その他 と答えた理由、具体的な申込み方法の希望 】

- 主催者側には、基本的には団体・個人の指定、指名は受けない。
どのような内容での講話が希望なのかのみを受け取る。
個人的には、語り部派遣を有料にして、各個人・各団体の指名制に移行するべきと思う。
- 同じ団体の同じ人ばかりが依頼を受ける事がないよう、各団体内でも配慮が必要かと思う。
- ①県外派遣事務局に申し込みがある。
その場合：主催者の口演内容の要望について、項目に分けて細かく選べる資料を作成。
団体個人の可能な口演内容について、項目に分けて細かく選べる資料を作成。
（例）地震津波、原子力災害、避難について、学校の状況、命の大切さ、人の繋がり、など。
口演の形態：口演（パワポ、動画使用）、紙芝居、音楽（歌）、美術作品
②県外派遣事務局が、主催者の要望と団体個人の内容を、資料によってマッチングする。
＊ 同じ内容であれば、リスト順に該当団体を選択する。
③県外派遣事務局が、団体個人に申込を連絡。調整。決定。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆語り部県外派遣事業においてご意見がございましたらご記入ください。

【 語り部の選定方法について 】

- 根本的に相手（希望者、団体）様を考え、今までのアンケートデータを基にして選抜するので良いと思います。毎回出掛けてみて、まず自分自身のプラスが多いこと、「直にお話を聞けて実感できた」ことを相手様より伝えられています。
- 語り部の研修を受講したからには、皆さん機会を待っていることと思いますが、他県からの講演テーマとしては東北大震災を考えれば、津波・防災を選びやすく、そうなると同じ団体になるのは仕方ないのかなあと、思った事があります。
- 主催者の講話内容の要望に基づいて、事務局が判断して語り部団体を選択し、各団体で語り部の人選をするという流れでよいのではと思う。
- 依頼件数(依頼者)やどなたが派遣されたのか？全体像が見えない。中間報告など、現状についての情報提供が欲しい。
- もう一年は継続して意見を集約したい。
- 片寄りすぎてモいがかかなと思います。

【 語り部県外派遣事業、語り部ネットワーク会議について 】

- インターネットに語り部の方が載らなくなったのはおかしいのではないかな？ 語り部の人数が増えすぎ。来年も増やしたら語る機会が減ってしまう。震災を知らない方が語り部になっている趣旨が合わないかな？
- 最近の派遣依頼には電話やメールの他にZoom会議などもあり、我々のようなWiFi難民にとっては派遣依頼が直接来るのは大変負担になっています。今まで語り部ネットワークさんにお世話になり何とか続けてこれましたが、このまま直接依頼の状態が続くのであれば活動も縮小を考えますし、ネットワークに入っている意味が無いと思っています。
- 私たち、語り部の社会的認知度アップのために、現在の福島県の予算での無料派遣を無くして、有料での派遣に切り替えて欲しい。
- 県外派遣事業は、現在、県。の事業であり、主催者には経費などの負担は生じない。団体個人は語り部としてのレベルアップを図る機会として、研鑽を積む好機だと言える。したがって、可能な限り団体個人の機会均等を図るべきだと考える。その際、主催者の要望に応える選出をするための工夫と努力が必要であり、団体個人の「自らの語る内容」についての自覚と信念が求められると思う。
- 今、地震があちこちで起こっています。福島で体験したこと、その後の暮らしのこと、まだまだ伝えていかねばならないと思います。知っていただくことが大切です。事務局と登録語り部のコミュニケーションも大切だと感じます。自信を持って紹介したい、私たちも選ばれたら一生懸命に仕事をするのが大切ですね。
- 相手先の要望に対して、満足いただけるような対応をいたしたいと考えています。県外派遣の申込先が求める内容に対して満足いただけるように研鑽してまいりたいと思います。申込に対する内容に応えるべく、研鑽をいたします。

令和7年度 ふくしま語り部県外派遣に関するアンケート

◆語り部県外派遣事業においてご意見がございましたらご記入ください。

【 語り部育成講座・スキルアップについて】

- ・ 養成講座から新しく事業へ参加なさる方がいると思います。残念ながら慣れてらっしゃらない。勿論当然です。場慣れをするまで、あるいは慣れるまで県内あるいはその「場」を作る事も大事ではないでしょうか。参加希望を問い、一般の方達にも聞いてくださるような「場」の提供までがフォローではないでしょうか。一、二度話ただけで、県外へ1人で出掛け話す事はハードルが高いと思います。
- ・ 研修会への参加が、日程の関係で叶いませんでした。この場合、研修会の資料や情報、決定事項などをお知らせ下されると助かります。
- ・ 語り部の力量に差があると、県外理解が進まないの、語り部のスキルアップ研修を再度受けられる制度が欲しいです。
- ・ 語り部の研修を受講したものの、一年過ぎても一度も人の前でお話した事がないという語り部さんの声も聞きます。年に2度語り部の交流(研修?)は行われているものの、せっかく学んだ事を忘れてしまったり、語り部としてのモチベーションが下がってしまうのではないのでしょうか？例えば、学校の授業、または語り部の研修など、小さなところで少しの時間でも語り部経験の少ない人が話す機会をつくって頂くなど『語りたい』と思って始めた気持ちを持ち続けられる仕組みができれば嬉しいと思います。

【 その他 】

- ・ この事業は全国的に展開されてますか。
特に原子力災害、防災については必要かと思います。各団体の個性？浜通り、中通りなど災害の受け方、あり方も違って当然であり、主催者が何について知りたいかしっかりと受けなくてはならない。
- ・ 文字が小さすぎて読みづらく、受講申込書は拡大していただけると助かります。
- ・ 県外派遣のみならず、国外派遣あるいは、福島県へ来られたインバウンド対応(英語)の語り部派遣の機会がありましたら、お声がけください。

受託事業者

株式会社 J T B 福島支店

福島県郡山市中町10-10
メルフ郡山1F



4 協議（１） 令和８年度伝承者育成講座（案）について

・令和８年度 伝承者育成講座

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

資料 4

全体コーディネート：福島大学准教授 前川 直哉氏

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月18日 (土) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定) 開講式 10:30～	開講式					
	語り部の役割 (90分) 10:40～ 12:10	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有 ワークショップ (75分) 13:00～ 14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、 福島大学准教授 前川 直哉氏 (予定)	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のあの日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ (120分) 14:30～ 16:30	多くの人に知ってほしい福島のおかし、いま、未来について、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える(各グループ) 班編制4人程度 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換(各グループ) ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 (予定)	・福島震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のあの日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18

※第2回研修までに語り部原稿・メモの見直し

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月26日 (土) (1日目) 双葉町産 業交流セン ター出発 <u>9:30</u> (予定)	語り部案内に によるフィールド ワーク① (120分) 9:50～ 11:50	福島県内の語り 部の活動内容を 実践の場で体験 し、その活動現 場を訪れる。また、 自分自身の経 験を語るために 必要なスキルや 伝えるべき震災 の実相について、 参加者の間で学 び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の 現状を把握するため、震災現場を 訪れます。語り部の実体験に基づく 説明を聞きながら、語り部活動の 重要性について考えます。 <内容案> ①震災現場訪問 ②語り部による地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールド ワーク① 中間貯蔵施 設 大熊未来塾 代表：木村 紀夫氏(予 定) ・バス移動中 (大熊～い わき) ネット ワーク会議会 員による案内 ・フィールド ワーク② いわき市薄磯 地区 いわき語り部 の会代表： 大谷慶一氏 (予定) ・バス移動中 (いわき～双 葉) ネット ワーク会議会 員による語り	・自身が発信すべきこ とを具現化することが できる。 ・自分事を相手に伝 え、共感を得ることが できる	・講師資料(講 師が準備の有 無を確認) ・フィールドワー ク資料(現場案 内で普段使用 しているもの) ※2日目研修 までに自身の語 り部原稿素案 (概要)を見直 し、原稿案とし て作成
	語り部案内に によるフィールド ワーク② (100分) <u>13:50～</u> <u>15:30</u>					
	意見交換会 (40分) <u>16:40～</u> <u>17:20</u>					
双葉町産 業交流セン ター 大会議室 (予定)			フィールドワークを終え、実際の現場 を体験してみでの感想や、語り部の 話す内容との違いや疑問等につい て、意見交換を行います。参加した 受講生の気づきや、自身の思いを 具現化するために必要なことにつ いて考えます。 <内容案> ①語り部との意見交換	意見交換 会：福島 大学准教 授 前川 直哉氏 (予定)	・自身の経験を価値 に変えるための気づき を得る	
宿泊準備						

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 (日) (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定)	伝わりやすい話し方講座 (90分) 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認)
	プレゼンテーションスキルアップ (180分) 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

※第4回研修までに発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第3回 11月28日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	プレゼンテーションスキルアップ 2 (180分) 10:30～ 14:30 ※途中60分 昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授 前川 直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第4回研修までに発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	備考
第4回 令和9年 2月13日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	成果発表 (120分) 10:00～ 12:00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	4～5グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。(1グループ3～4人＋講師) ※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部(東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 会長・副会長・会員)	発表の様子は記録動画に保存し、アーカイブ化のための材料とする。

修了式(2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内)

令和8年度伝承者育成講座（第3回）について（案）

1 現状

語り部としてのスキルや語りの質的向上として、令和7年度第3回講座は、「プレゼンテーションスキルアップ2」とし、自由参加という形式で実施し、受講者の半数（7人／14人）が参加した。

2 課題

受講生の中には、福島での震災体験が無い人、第3回講座に参加できていない人などがおり、次回講座までにスキルアップを要する受講生の参加が十分に得られていない。福島の震災語り部としての語りの完成度について、個人差が広がる恐れがある。

また、講座修了者は、ふくしま語り部ネットワーク会議登録の団体に所属することになるが、語り部団体との交流できる機会が少ない。

3 令和8年度以降の第3回講座の開催方法について

- （1）A案：受講を必須とし、午前・午後の一日開催とする。
- （2）B案：受講を必須とし、午前：講座受講、午後：ふくしま震災伝承者交流会参加
- （3）C案：受講を自由とし、午前：講座実施、午後：ふくしま震災伝承者交流会参加

4 「ふくしま震災伝承者交流会」に参加するメリット

（1）基調講演からの学び

受講生：自身の語りに役立つ知識等の吸収ができる。

団体：最新の情報を得ることで、語りのレベルアップにつながる。

（2）交流

受講生：既存の語り部団体との顔合わせにより、団体の特徴や実績等を知ることができ、語り部団体に所属することなどの不安の解消につながる。また、語り部活動のヒントを得られる。

団体：受講生に団体の紹介ができる。受講生以外の他の語り部とも交流できる。

令和8年度ふくしま震災伝承者交流会 基調講演案について

1 交流会の基調講演案

令和7年度ふくしま震災伝承者交流会のアンケート結果から4案を作成した。

A案：沖縄の「平和学習」に学ぶ次世代への継承の仕組み

講師候補：沖縄県教職員組合（平和ガイド育成担当）

内容案：戦争体験がない若者が「ガイド」を務める沖縄の先進事例から、育成と継承の仕組みを学ぶ。

狙い：語り部の高齢化や、震災未経験世代への教育に悩む現状に対し、平和学習から、福島において「震災を知らない世代」に継承するヒントを得る。

B案：「伝わる」資料作成術（スライド作成、資料作成の技術）

内容案：「自身の体験」と「客観的なデータ」をバランスよく構成する技術を学ぶ。AI（画像生成や文章要約）を活用したスライド作成の時短テクニック、

狙い：資料作成の負担軽減と、視覚的な説得力を高めることを目指す。

C案：阪神・中越の教訓から学ぶ災害の垣根を越えた伝承

講師案：阪神・淡路大震災、または中越地震の伝承活動家

内容案：発生から20年、30年が経過した地域で、どのように語り継ぎが変化し、継続されてきたかの事例を学ぶ。

狙い：活動を続けるための継承の知恵を学びつつ、自然災害全般に共通する「命を守る考え方」を再確認する。

D案：絵本から学ぶ「感情に届ける」伝承技術

講師案：すとうあさえ先生（「ディーゼルきかんしゃデーデ」作者）

内容案：事実を伝えるだけでなく、絵本のように「物語」として心に届ける手法を学ぶ。

狙い：震災を知らない世代や子供たちに対し、難しい言葉を使わずに当時の状況や教訓を伝える「表現の幅」を広げる。

4 協議（2）

令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害
伝承者育成講座 開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から15年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性がより一層増している。その一方で、後継者の育成が課題であることから、複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○開講式・第1回伝承者育成講座

【日時】令和8年7月18日（土）10：30～16：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

○第2回伝承者育成講座（1日目） ※宿泊については希望される方のみ。

【日時】令和8年9月26日（土）9：30～17：20（受付9：20～）

【場所】集合場所：双葉町産業交流センター 駐車場

・フィールドワーク訪問地 大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動

・意見交換会 双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】フィールドワーク・意見交換会

○第2回伝承者育成講座（2日目）

【日時】令和8年9月27日（日）9：00～14：45（受付8：50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】1時間目「伝わりやすい話し方講座」

2時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

○第3回伝承者育成講座

【日時】令和8年11月28日（土）10：30～14：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ2」

○第4回伝承者育成講座・修了式

【日時】令和9年2月13日（土）10:00～14:00（受付9:50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】成果発表・修了式

※修了式は、同日の午後を開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

○その他

- (1) 全講座を受講した者に修了証書を授与する。また、受講修了者は、県外語り部派遣者として登録する（県内外で3回以上の講演実績があり、団体の推薦が必要）。
- (2) 第2回伝承者育成講座は2日間にわたり開催する。宿泊は、希望者のみで、宿泊費は、受講者負担とする。宿泊先は、双葉町内のホテル（シングル8,000円程度）を予定。
- (3) ①講座はマスコミオープンとする。
②受講者の様子を毎回、写真や動画で撮影し、活動報告及び広報活動（ウェブサイト、次年度以降のチラシ等）で利用する。。。

- 4 受講対象 ・一般の方（高校生以上）で、震災伝承活動に関心がある方
 ・現在（過去も含む）、震災伝承者活動をしている方

- 5 募集人数 15名程度

- 6 受講料 無料（交通費・宿泊費は自己負担とする。）

7 申込方法

- (1) 締切日 令和8年6月12日（金）（予定）

- (2) 方 法 受講希望者は、「(様式) 令和8年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座 受講申込書」に必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。

8 受講者の選考

受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査により選考する。

受講者決定後、7月上旬に申込者全員に選考結果を送付する。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

4 協議（3）

**令和 8 年度福島県東日本大震災・原子力災害
伝承者育成講座（中国人向け）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）**

- | | |
|----------|---|
| 1 事業の目的 | 中国語圏からの来県者の増加に伴い、今後さらに震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、福島県の未曾有の複合災害の記憶と教訓を、中国語で伝えることができる語り部を育成する。 |
| 2 主 催 | 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議 |
| 3 日程・内容 | 令和 8 年度伝承者育成講座 開催要項（日本語）に準ずる。 |
| 4 受講対象 | 震災語り部を希望する県内在住の中国語圏出身の方（講座の日本語が理解できることが条件）及び中国語が話せる方 |
| 5 募集人数 | 2 名程度 |
| 6 受講料 | 無料（交通費・宿泊費は自己負担とする。） |
| 7 申込方法 | （1）締切日 令和 8 年 6 月 1 2 日（金）
（2）方 法
受講希望者は、「（様式）令和 8 年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座（中国人向け）受講申込書」に日本語で必要事項を記入し、下記申込先へメールで申し込む。 |
| 8 受講者の選考 | 受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査により選考する。受講者決定後、7 月上旬に申込者全員に選考結果を送付する。 |

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

4 協議（4）

**令和 8 年度福島県東日本大震災・原子力災害
伝承者育成講座（英語）開催要項（案）（次世代へつなぐ震災伝承事業）**

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から 15 年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性が増すとともに、インバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施する。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○第 1 回講座

【日時】令和 8 年 7 月 18 日（土） ※対面（育成講座と同日）

受講生①の講座：10：40～11：40

受講生②の講座：12：40～13：40

受講生③の講座：14：10～15：10

※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行う。

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」

○第 2 回講座

【日時】令和 8 年 9 月 5 日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座②」

○第 3 回講座

【日時】令和 8 年 10 月 17 日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座③」

○第 4 回講座

【日時】令和 8 年 12 月 5 日（土） ※オンライン

受講生①の講座：9：00～10：00

受講生②の講座：10：30～11：30

受講生③の講座：12：30～13：30

【内容】「翻訳原稿の音読講座④」

○第 5 回講座・修了式

【日時】令和 9 年 2 月 13 日（土） 10：00～12：00 ※対面（育成講座と同日）

【場所】双葉町産業交流センター 小会議室（予定）

【内容】成果発表

※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行う。

4 受講対象

○東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴3年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。

○「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。

5 募集人数 3名程度

6 受講者選考方法

語り部団体から、「(様式) 令和8年度東日本大震災・原子力災害伝承者育成講座(英語) 受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から事務局で選考し被推薦者に意思確認を行う。被推薦者から承諾を得た後、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の承認を受けて、受講生を決定する。選考結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールで報告する。

7 受講料 無料(交通費、昼食費、オンラインに要する費用は、自己負担とする。)

8 全体スケジュールイメージ

事前準備(4月～6月)	講座受講(7月～2月)	成果発表	修了後
①語りの原稿(日本語発表で20分程度の原稿)を作成、事務局に提出。 ②県国際課で英訳・音声データの提供を受け、音読練習を行う。	○全5回講座、講師と受講生のマンツーマン式。 ※次回の講座まで、各自で自主練習(翻訳原稿の音読練習)を行う。	○第5回講座で成果発表(語り約20分、講評10分程度を予定)	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9 その他

- (1) 本開催要項の日程は、今後、参加者の状況に応じて変更することがある。
- (2) 成果発表は、講師のほか英語話者の聴講を調整する。
- (3) 本講座は英語スピーチの習得に特化したものであり、英会話の習得を目的としない。
なお、質疑応答は引き続き通訳を介して行うものとする。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール: f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

(事務局: 福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL: 024-521-7404)

4 協議（5）

伝承者育成講座の修了基準について

1 修了認定の規定等について

「令和 7 年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 開催要項」

（1）全講座を受講した方に修了証書が授与されます。また、修了された方は、県外語り部派遣者に登録されます。

（中略）

（3）全日程参加を前提としますが、個別の事情がある方は事前に事務局にご相談ください。

2 実態（現状）

全講座受講を受講者の修了認定と定めているが、過年度の育成講座において、遅刻により、開催日に複数予定したプログラムに途中参加した受講者の受講も認めていた。

3 受講認定の捉え方

各回の講座で用意した全てのプログラムは、語り部としてのスキルを身に付けるために必須であり、次回講座のプログラムにつながる要素を含んでいるため、全プログラム受講が望ましい。

4 課題

- ・「個別の事情」等による早退・遅刻による部分的参加を受講と認めてよいか。
- ・1 回（1 日）欠席の場合を受講と認めてよいか。

5 事務局（たたき台）

（1）受講修了認定

全プログラムを受講した者のみ修了認定とし、修了証書を授与する。

（2）受講の原則

講座開催時の遅刻・早退は、1 講座受講とは認められない。

どのような事情があっても、講座開始に間に合わなかった場合は、受講することはできない。また、講座途中で早退した場合は、未受講扱いとする。

（3）未受講者への対応

- 第 1 回を未受講の者は、第 2 回からの受講は認められない。

→次年度第 1 回から受講する。

- 第 1 回を受講し、第 2 回が未受講の者は、その後の受講は認められない。

→第 2 回以降、未受講があった時点で終了とする。当該年度に受講済講座については事務局で確認し、次年度に未受講の講座を受講する。時代の変化に伴いプログラム内容も変更となるため、通算の有効期間は 2 年間とする（次年度まで）。

	第 1 回 (必須)	第 2 回 (必須)	第 3 回 (必須)	第 4 回 (必須)	備考
基本ルール	必須	必須	必須	必須	全回出席で修了
1 回目未受講	×	受講不可	受講不可	受講不可	第 1 回欠席者は以降の受講不可
1 回目受講済 2 回目未受講	○	×	受講不可	受講不可	第 1 回講座の受講を事務局で確認し、次年度第 2 回講座から受講
1 回目受講済 2 回目受講済 3 回目未受講	○	○	×	受講不可	第 1 回・第 2 回の受講を事務局で確認し、次年度第 3 回講座から受講
1 回目受講済 2 回目受講済 3 回目受講済 4 回目未受講	○	○	○	×	第 1 回～第 3 回の受講を事務局で確認し、次年度第 4 回講座から受講

4 協議（6）

語り部県外派遣者の登録基準等について

1 語り部県外派遣者登録及び派遣について

「令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 開催要項」

（1）全講座を受講した方に修了証書が授与されます。また、修了された方は、県外語り部派遣者に登録されます。

○育成講座修了者は、ふくしま語り部ネットワーク登録の団体に所属し、事務局が修了者本人に派遣者登録希望の意志確認を行い、講演実績や語りの完成度などに囚われず、希望者を語り部県外派遣者として登録し、県外へ派遣している。

※ふくしま語り部ネットワーク会議臨時総会（R7.7.2）

「伝承者育成講座修了者が県外派遣の対象となる仕組み」についての協議結果

（1）伝承者育成講座の修了者は、①修了証書の授与に加え、②（個人グループの団体も含め）どこかの団体に所属できることをメリットとする。

（2）県外派遣の登録・派遣は、団体を經由して行うこととする。

（3）団体に所属することでネットワーク会議に間接的に参画する。

2 県外派遣の実態について

令和6年度の伝承者育成講座修了者14名のうち、11名が語り部県外派遣者として登録されている（3名は辞退）。令和8年1月8日現在、11名の令和7年度県外派遣における講演回数は17回（最多4回/人、最小0回/人）となっている。なお、現在まで、講演の主催者から事務局に対して、派遣した語り部の講演内容等に対するクレームはない。

3 懸念事項について

現在は、講演の経験が不足している状態であっても、主催者のニーズと登録者の講演テーマが合致すれば、登録者自身（又は団体）の判断次第で派遣される。経験値が少ない登録者が派遣され、語りや質問への対応等が聴講者に受け入れられなければ、県外派遣の質が問われ、依頼件数の減少が想定される。

4 事務局（たたき台）

以下の要件をすべて満たす者を語り部県外派遣登録者とする。

・実績要件

官民を問わず、研修会や講演会等の講演回数が3回以上あること。

・語り部県外派遣者登録期間

育成講座修了後より開始し、随時受付を行う。

・登録手続き

登録申請書（指定用紙）を事務局宛に提出する。申請者は、当該語り部が所属する団体とし、3回以上の講演実績（日時・場所・対象等）を記入する。事務局が申請内容を確認し要件を満たせば県外派遣登録者として登録する。